

欠席委員の意見

委員Aの意見

1 居場所と役割について

- ・忙しさや煩わしさから、地域とのつながりを持たず、お金で解決できる楽なサービスを選びがち。
- ・お金では解決できない「面白さ」が地域にはあり、子育て世帯が地域コミュニティに参加することのメリットは大きいと感じる。
- ・家や職場とは違った役割を与えられる第三の居場所があることで、「自己肯定感」が高まる。
- ・地域参加することの煩わしさを面白がる“きっかけ”があると良い。

2 支援を受ける力（受援力）について

- ・子育てについて「失敗してはいけない、きちんとしなければならない」というような完璧主義的な考え方への囚われ
- ・支援受けることについてネガティブな価値観を持つ方が多い。
- ・高齢者が介護サービスを使ったり、障がい者が福祉サービスを使ったりすることと同様に、子育て期にも子育て支援を受けるのが当然という認識を持つことが大切。
- ・高校生などの若いうちから子育て支援について学び、助けを求める力や支援を受ける力（受援力）を育む必要性を感じる。

委員Bの意見

1 結婚・子育てへの不安について

- ・漫画やメディアの印象から結婚・子育てについて「大変そう」「負担が大きい」といったネガティブな印象を持つ若者は多い。
- ・仕事と子育てを両立するための制度が整っていない、または利用しづらいことで将来への不安が強まる。

2 地域とのつながりについて

- ・学童期に知多市に引っ越してきて子ども会に入ったことで、母子ともに地域に馴染めた経験がある。
- ・地域の行事での緩やかなつながりが、過ごしやすさにつながった。

3 居場所について

- ・居心地の良い居場所は人それぞれ異なるため、「自分に合う居場所を自分で選べること」が自己肯定感を高めることにつながる。
- ・大人には、「居場所は自分で選んでよい」という価値観を伝えて欲しい。

委員Cの意見

1 働く母親を支える環境づくりについて

- ・保育園が家庭にとって「安心できる居場所」となるような存在でありたい。

2 病児保育施設について

- ・子どもの発熱時に保護者が仕事を休めないため、子どもの体調に注意しながらギリギリまで保育するケースもある。
- ・市内の身近なところに病児保育施設があれば、保護者は病児保育が利用しやすく、保育士の負担軽減にもつながる。

3 児童発達支援のコーディネートについて

- ・様々な療育の選択肢がある中で、個々の子どもの特性に合わせて選択できるようコーディネートする機関が必要。

4 保育士の働き方について

- ・園児と離れて事務作業に集中するノンコンタクトタイムの導入、ICT化、ペーパーレス化、オムツのサブスクリプション導入など、現場の業務効率化を進めている。